

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H010A204		チュートリアルI (Tutorial I)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	2	2年	福祉健康科学部	後期		氏名 朝井, 片岡, 河上, 見玉, 阿南, 紀, 菅田, 萬井, 安藤, 川上, 田中, 橋本, 川村, 工藤, 栄留, 武内, 渡邊, 河野, 溝口, 村上, 池永, 岩野 E-mail t-mizo@oita-u.ac.jp 内線 7522										
授業の概要	チュートリアルI～IIIを通して、座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	コース毎にグループを編成して、事例の検討・発表を行う。						○									
目標2	専門職としての問題解決についてのアプローチ方法を学ぶ。						○									
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 事例①提示, 学習項目の抽出																
2 事例①討議, 発表の準備																
3 事例①学習成果の発表, まとめ																
4 事例②提示, 学習項目の抽出																
5 事例②討議, 発表の準備																
6 事例②学習成果の発表, 学習のまとめ																
7 事例③提示, 学習項目の抽出																
8 事例③討議, 発表の準備																
9 事例③学習成果の発表, 学習のまとめ																
10 事例④提示, 学習項目の抽出																
11 事例④討議, 発表の準備																
12 事例④学習成果の発表, 学習のまとめ																
13 事例⑤提示, 学習項目の抽出																
14 事例⑤討議, 発表の準備																
15 事例⑤学習成果の発表, 学習のまとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ☐ 問題解決型学習、グループ単位での教えあい・学びあい、発表					工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換 ☐															
	C:応用志向 ☐															
	D:知識の活用・創造 ☐															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 グループで抽出した学習項目について十分な自己学習をした上で、グループ討議に臨むこと。 グループ課題が時間内に終わらない時は、空いた時間にグループ活動を行うこと。(30h) 事後 他のグループの発表や教員による解説を参考に省察し、課題の完成度を高めること。(15h)															
教科書	特に指定しない															
参考書	特に指定しない															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	グループ活動への参加状況	30%	○	○												
	発表	30%	○	○												
	達成度確認テスト(学習成果物、レポート等)	40%		○												
注意事項	なし															
備考	・事例ごとに、司会者・書記を選出する。司会者と書記は毎回変更すること。 ・発表についても、事例ごとに発表者を変更すること。															
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の 実務経験	理学療法士、社会福祉士、臨床心理士・公認心理師、看護師・保健師、医師
実務経験を いかした教 育内容	グループ学習を通じて、学生が専門的知識を深め、問題解決についてのアプローチ方法を学ぶ。 チューターである教員は学習のファシリテーターとして参加し、議論の経過を見守りつつ、必要に応じて助言・指導を行う。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H010A302		チュートリアルⅡ(TutorialⅡ)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	1	3年	福祉健康科学部	前期		氏名 朝井、片岡、河上、兒玉、阿南、紀、菅田、安藤、川上、田中、橋本、川村、工藤、廣野、柴留、武内、渡邊、河野、溝口、村上、池永、岩野 E-mail t-mizo@oita-u.ac.jp 内線 7522										
授業の概要 チュートリアルⅠ～Ⅳを通して、座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。																
具体的な到達目標																
DP等の対応(別表参照)																
目標1	グループで抽出した学習項目にそった自己学習を行う。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標2	グループ活動に積極的に参加する。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標3	グループ学習の成果を発表する。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標4	専門職間連携について説明できる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標5		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標6		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標7		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標8		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標9		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標10		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
授業の内容																
1	事例①-1提示、学習項目の抽出															
2	事例①-1討議、学習のまとめ															
3	事例①-2提示、学習項目の抽出															
4	事例①-2討議、発表準備															
5	事例① 学習成果の発表、質疑応答、教員による解説															
6	事例②-1提示、学習項目の抽出															
7	事例②-1討議、学習のまとめ															
8	事例②-2提示、学習項目の抽出															
9	事例②-2討議、発表準備															
10	事例② 学習成果の発表、質疑応答、教員による解説															
11	事例③-1提示、学習項目の抽出															
12	事例③-1討議、学習のまとめ															
13	事例③-2提示、学習項目の抽出															
14	事例③-2討議、発表準備															
15	事例③ 学習成果の発表、質疑応答、教員による解説															
16																
17	※ 事例1：理学療法コースと社会福祉実践コースを対象とする															
18	事例2：社会福祉実践コースと心理学コースを対象とする															
19	事例3：心理学コースと理学療法コースを対象とする															
20																
21																
22																
23																
24																
25																
26																
27																
28																
29																
30																
ラ ア ク ニ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		○問題解決型学習		2コース合同のグループ単位による教えあい・学びあい、発表、全体での討議		工夫 その他		2コース合同のグループ編成とすることで、自らの専門性と専門職間連携の必要性への理解が深まる。							
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修		グループで抽出した学習項目について十分な自己学習をした上で、グループ討議に臨むこと。 グループ課題が時間内に終わらない時は、空いた時間にグループ活動を行うこと。(30h)													
	事後学修		他のグループの発表や教員による解説を参考に省察し、課題の完成度を高めること。(15h)													
教科書	特に指定しない。															
参考書	特に指定しない。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	グループ活動の参加状況	30%	○	○	○	○							
	発表	30%		○	○	○							
	達成度確認テスト（学習成果物、レポート等）	40%	○			○							
注意事項	履修すべき授業回数は10回（2事例）であるので、自分が所属するコースの実施Hについて授業内容欄（※）を確認すること。												
備考	・ 1～4コマの全てのグループ活動において、司会者・書記を選出する。司会者と書記は毎回変更すること。 ・ 5コマ目の発表について、事例ごとに発表者を変更すること。												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の 有無	○												
教員の実務 経験	理学療法士、社会福祉士、臨床心理士・公認心理師、看護師・保健師、医師												
実務経験を いかした教 育内容	チューターである教員は学習のファシリテーターとして参加し、議論の経過を見守りつつ、必要に応じて助言・指導を行う。事例作成者である教員は、各専門資格による実地の臨床経験に基づいた知識、考え方を提供する。												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H010A305		チュートリアルⅢ(TutorialⅢ)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 朝井、片岡、河上、兒玉、阿南、紀、菅田、萬井、安藤、川上、田中、橋本、川村、工藤、廣野、柴留、武内、渡邊、河野、溝口、村上、池永、岩野 E-mail t-mizo@oita-u.ac.jp 内線 7522											
授業の概要	チュートリアルⅠ～Ⅳを通して、座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	グループで抽出した学習項目にそった自己学習を行う。						○	○	○								
目標2	グループ活動に積極的に参加する。						○	○	○								
目標3	グループ学習の成果を発表する。						○	○	○								
目標4	チームアプローチの全体性について説明できる。						○										
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	事例①-1提示、学習項目の抽出																
2	事例①-1討議、学習のまとめ																
3	事例①-2提示、学習項目の抽出																
4	事例①-2討議、発表準備																
5	事例① 学習成果の発表、質疑応答、教員による解説																
6	事例②-1提示、学習項目の抽出																
7	事例②-1討議、学習のまとめ																
8	事例②-2課題提示、学習項目の抽出																
9	事例②-2討議、発表準備																
10	事例② 学習成果の発表、質疑応答、教員による解説																
11	事例③-1提示、学習項目の抽出																
12	事例③-1討議、学習のまとめ																
13	事例③-2提示、学習項目の抽出																
14	事例③-2討議、発表準備																
15	事例③ 学習成果の発表、質疑応答、教員による解説																
ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認	○問題解決型学習					工 夫 そ の 他 の					3コース合同のグループ編成とすることで他の専門領域への理解が深まり、多角的視点をもって発展的に討議することができる。					
	B:意見の表現・交換	○3コース合同のグループ単位による教えあい・学びあい、発表、全体での討議															
	C:応用志向	○															
	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	グループで抽出した学習項目について十分に自己学習したうえで、話し合いに臨むこと。															
	事後学修	グループ課題が時間内に終わらない時は、空いた時間にグループ活動を行うこと。(30h)															
		他のグループの発表や教員による解説を参考に省察し、課題の完成度を高めること。(15h)															
教科書	特に指定しない。																
参考書	特に指定しない。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	グループ活動の参加状況	46%	○	○	○	○											
	発表	24%		○	○	○											
	達成度確認テスト(学習成果物、レポート等)	30%	○			○											
注意事項																	
備考	・1～4コマの全てのグループ活動において、司会者・書記を選出する。司会者と書記は毎回変更すること。 ・5コマ目の発表について、事例ごとに発表者を変更すること。																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士、社会福祉士、臨床心理士・公認心理師、看護師・保健師、医師
実務経験を いかした教 育内容	チューターである教員は学習のファシリテーターとして参加し、議論の経過を見守りつつ、必要に応じて助言、指導を行う。事例作成者である教員は、各専門資格による実地の臨床経験に基づいた知識、考え方、連携のあり方等を提供する。